



NPO 法人シニア自然大学校 理事 東 征男さん
あずま ゆきお

公園の自然には、「遊び」の中に「学び」がいっぱい！

子どもを自然の中で遊ばせたい。冒険や発見を通して、いろんなことを学ばせたい。多くの大人がそう願いながらも、実際には思うようにいかない様子。そんな中、「難しく考える必要はありません。まずは近所の公園へ出かけましょう！」と元気良く話すのは、NPO 法人シニア自然大学校、理事の東 征男さん。身近な所にある小さな公園でも、少し視点を変えるだけで自然の魅力を体感できると言えます。



好奇心の扉を開く
きっかけづくりを

虫眼鏡ひとつ持って行くだけでも、これまで見えなかった世界が見えてくる、と話す東さん。「例えば足下をちょこまか動くアリの顔をレンズ越しに覗いてみましょう。『意外とかわいい顔をしているなあ』と思えば、きつと他の昆虫の顔も見えてみたくはならず。それに季節の草花を観察すれば、雄しべと雌しべがあるのに気づく。その体験が、生命の尊さに思いを馳せる入り口になるかもしれませんよ」。



きっかけづくりをしてほしい。いったん好奇心の扉が開いたら、後は子どもが自分でスズン突き進んで行きますよ(笑)。

人間形成に役立つ
素晴らしい教材

自然体験の感動をみんなで分かち合おうと大阪市港区にある八幡屋公園では毎年、「みんなであそぼう！ 自然・エコ・工作大会」というイベントを開催しています。

この日は、シニア自然大学校の皆さんが、それぞれ得意分野の先生に変身！ 木工や竹工作から紙すき体験、風あげ、植物の生き方講座まで、バラエティ豊かに繰り広げられます。



「拾った木の実でペンダントを作ったり、オナモミの実ひっつき虫でダーツ遊びをしたり。子ども達は自然の素材を使った体験には、特に夢中になって楽しんでいきます。そしてしばらくすると『なんでこんな色やカタチをして

んねやる』といった疑問がムクムク湧いてくるのです。この時、保護者が『終わったら早よ帰る』なんて言うてはいけません。本人の気が済むまでじっくり観察させてあげて下さい。」



東さんいわく、世の中は

自然の力と人間の力がうまく合わさること。自然の産物を人間の創意工夫で活かすことが、すべての基本であり土台になっているからです。

「自然の中で遊ぶことは、社会での生き方を学ぶことにも通じます。ぜひ幼いうちから自然という素晴らしい教材と向き合う機会をたくさん設けて、豊かな人間形成に役立ててほしいですね」。

特定非営利活動法人 シニア自然大学校

自然環境保全のための、普及啓発、調査研究、政策企画提案等の活動を国内外で行うと共に、子どもの健全な育成やまちづくり、更に地球環境問題にも積極的に取り組み、広く他団体との交流を深め、そしてこれらの活動を通じて社会の健全な発展に貢献しています。
<http://www.sizen-daigaku.com/>

●そろえておきたいアイテム

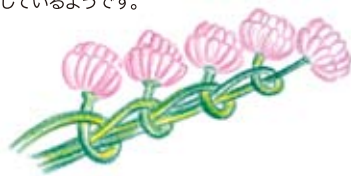
水筒、タオル、着替え、雨具、ティッシュペーパー、ビニール袋、虫除けスプレー、日焼け止め、傷テープ、常備薬

●公園の自然と付き合うためのお約束

- 花や葉っぱ、枝はできるだけぎざらず、落ちているものを使いましょう。どうしてもという場合も、一箇所から必要以上にぎざらないようにして下さい。
- 来た時よりも美しく。ゴミはゴミ箱か、持って帰るようにして下さい。
- 植物には毒性があったり皮膚のかぶれの原因になるものもあるので、手で触ったり、唇に宛てたりする場合は十分にご注意下さい。
- 藪などの暗い場所には絶対に近づかないで下さい。

花の王冠

先端に花があり、茎の細長い植物を使います。茎をねじって次々とつなげていき、最後は輪にして留めます。輪を長くすれば首飾りになります。※クローバー(シロツメクサ)やレンゲが適しているようです。



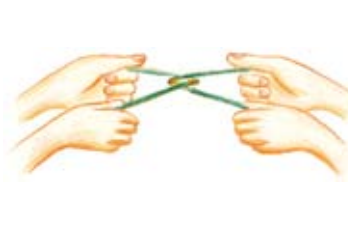
花の風車

タンポポの茎を切り、切り口にレンゲの花を差し込むと完成。息を吹きかけるとクルクル回ります。



松葉相撲

二本の松葉を二股に分かれた部分でかみ合わせます。お互いに松葉を引っ張り合い、二つに裂けた方が負けとなります。



ススキの葉飛ばし

ススキのような細長い葉の中心のスジ(中脈)の両脇を裂き、グイッと引っ張ります。飛距離を競い合うと面白いですよ。



草笛

カシヤクスノキの葉のように平らで薄い葉っぱを下唇に当てて強く吹いてください。葉っぱを丸く巻いて吹く方法もあります。またタンポポなどの茎の端を少しつぶして吹いても音が鳴ります。

